

## 国際商品市況（3/14～4/17）

原油・銅・鉄鋼原料・穀物

ホルムズ海峡の物流停滞で原油は高値圏

2026年 4月 21日

|                        |   |
|------------------------|---|
| 原油（ホルムズ海峡の物流停滞で高値圏）    | 2 |
| 上席主任研究員 李 雪連           |   |
| 銅（エネルギー高や副資材制約で上昇）     | 2 |
| 上席主任研究員 李 雪連           |   |
| 鉄鋼原料（エネルギー価格上昇が相場を下支え） | 3 |
| 上席主任研究員 栞名 奈美          |   |
| 穀物（潤沢な供給の一方、肥料高の影響に注意） | 3 |
| 主任研究員 浦野 愛理            |   |

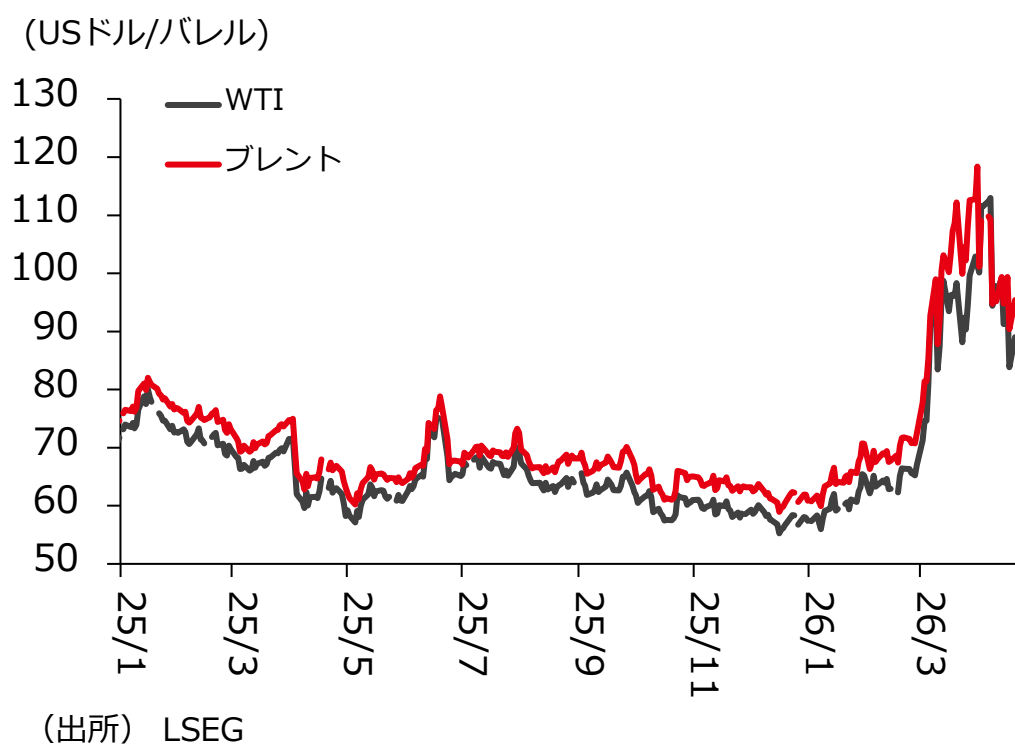
## 原油

上席主任研究員 李 雪連

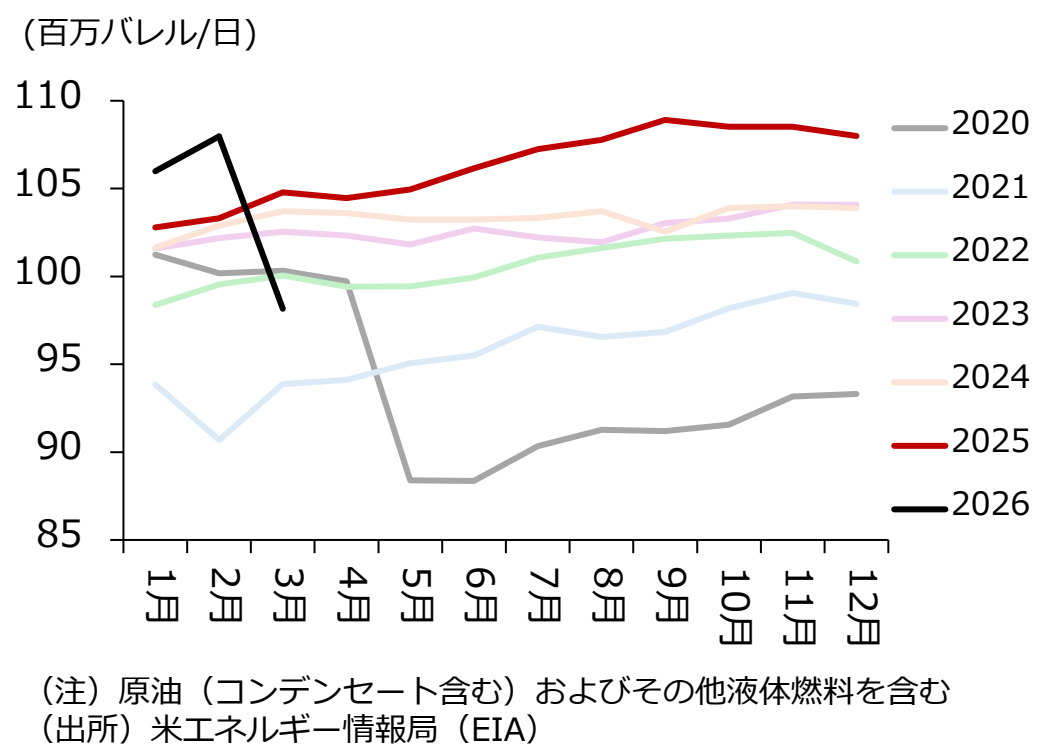
**足元の動向**：中東情勢の緊迫化を受け、原油価格は3月末から4月初めにかけて急騰した。ブレントは攻撃前の70ドル前後から120ドル近辺まで、WTIも65ドルから110ドル超へと上昇。ホルムズ海峡を經由して世界に供給される原油・石油製品（日量20百万バレル）の供給途絶リスクへの懸念が、価格を押し上げた。足元は停戦などを受けブレントは95ドル程度、WTIは90ドル弱まで低下したが、依然高水準で推移。情勢はなお流動的だが、ホルムズ海峡の物流停滞は続いている。特に深刻なのは、攻撃前に海峡を通過した原油の到着が4月下旬で一巡し、今後は本格的な供給途絶局面に入る点だ。備蓄余力の乏しい国を中心に現物不足が生じ、現物価格は期近先物を大きく上回っている。

**先行き**：3月の世界原油生産は日量約98百万バレルと前月から約10百万バレル減少。サウジ・UAEでは振替輸送が上限に達し、イランも逆封鎖で減産が見込まれる。米国産などの代替供給は当面限定的であり、価格は高値圏で推移する一方、流動的な情勢や需要調整の動きを受けて変動も大きい。

▽原油価格（期近物）



▽世界の原油生産量



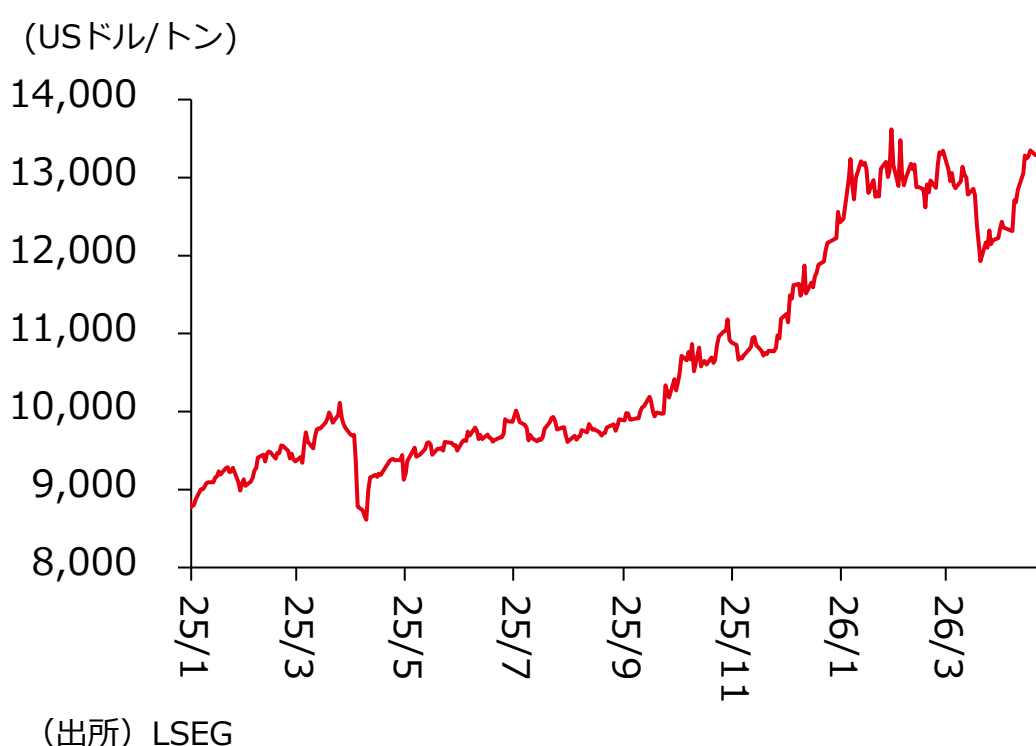
## 銅

上席主任研究員 李 雪連

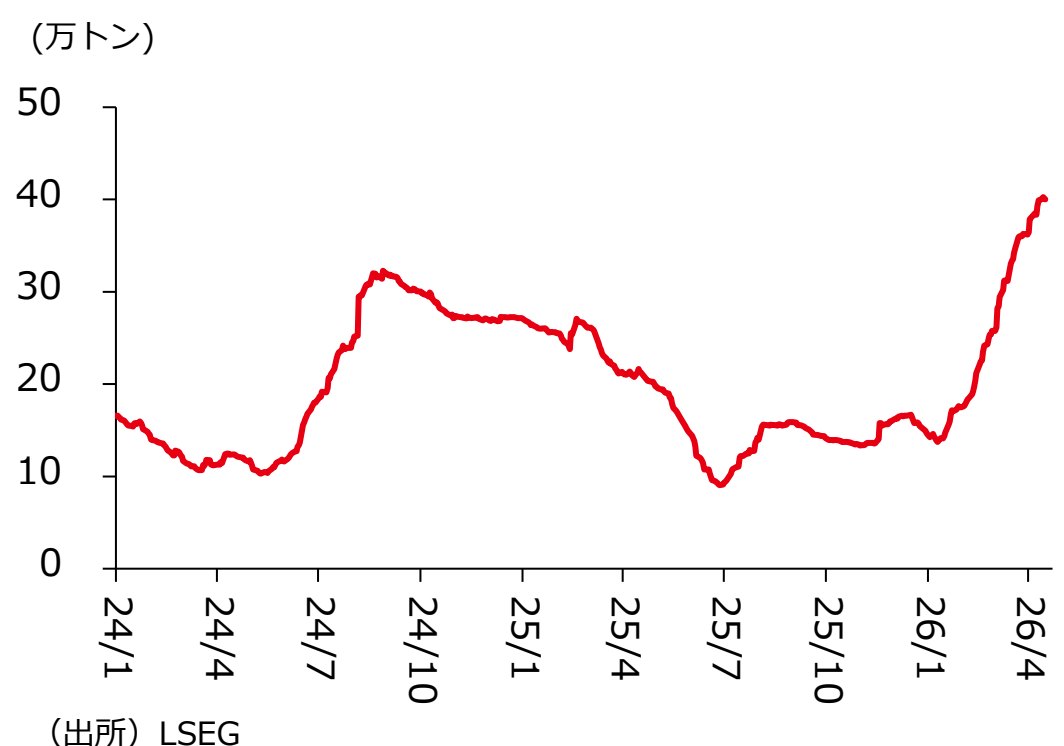
**足元の動向**：ロンドン金属取引所（LME）の銅価格は、中東情勢の緊迫化後も13,000ドル近辺で高止まりしていた。銅はホルムズ海峡への依存度が低いため、当初は情勢悪化の影響は限定的とみられていた。しかし、トランプ米大統領がイランの電力インフラ攻撃を警告したことで、情勢悪化への警戒からリスク回避の動きが強まり、価格は12,000ドルを下回った。その後は、輸送コストの上昇や、硫黄など副資材の供給制約を背景とした製錬コスト高が焦点となり、価格は再び上昇した。

**先行き**：当面は、エネルギー高や副資材供給制約を背景に製錬活動が抑制され、銅価格は高値圏で推移すると見込まれる。ただし、中東情勢が極めて流動的な中、価格変動は大きくなりやすく、主要3取引所の銅在庫は約120万トンと歴史的に高水準に積み上がっている点は短期的な下押し圧力となる。中長期的には、鉱石不足や製錬所の採算悪化といった供給面の不安に加え、データセンターや再生可能エネルギー向け需要の拡大が、価格の下支え要因となり得る。

▽銅（LME、3カ月物）



▽取引所在庫（LME）



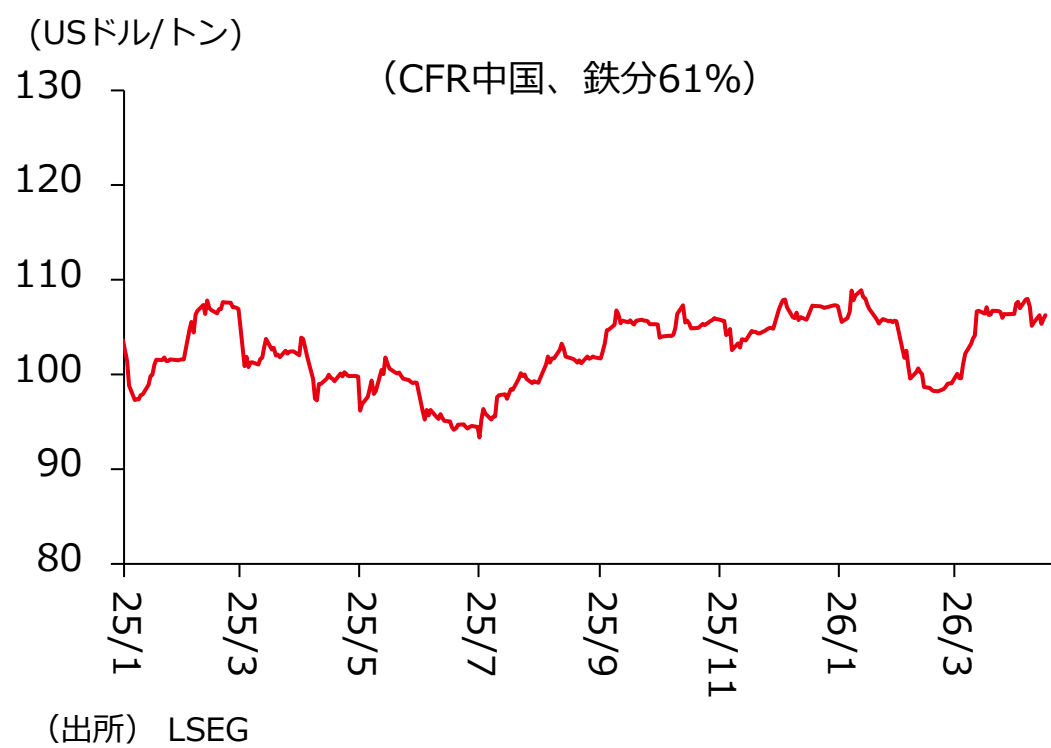
## 鉄鋼原料

上席主任研究員 栗名 奈美

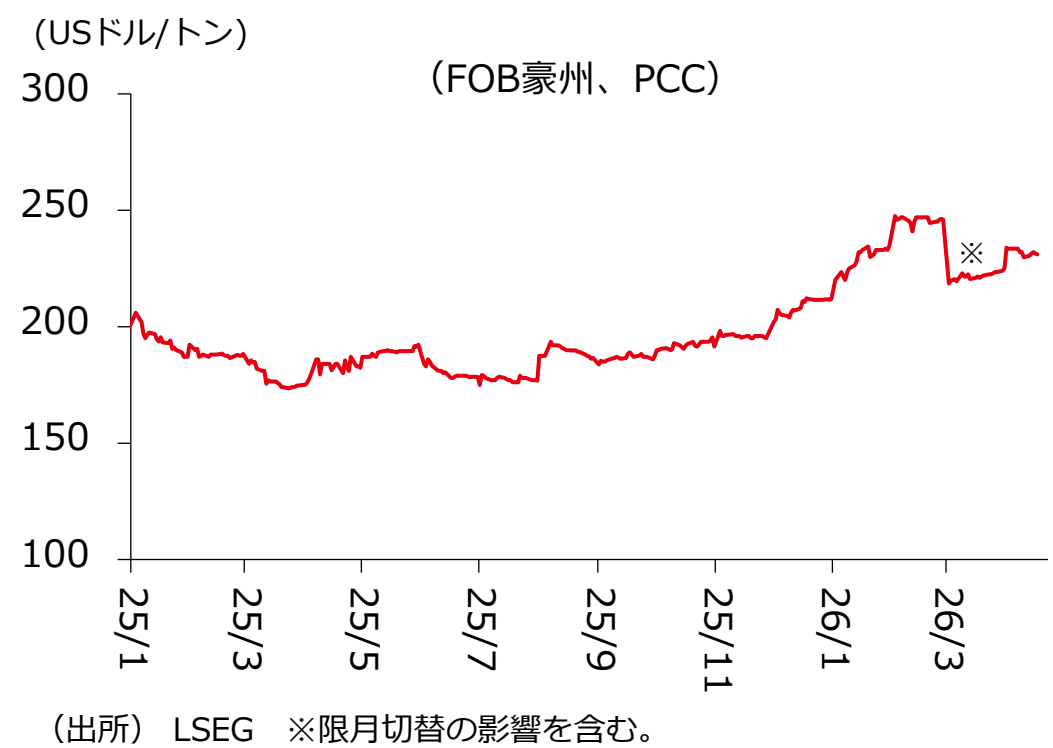
**鉄鉱石**：価格は106ドル付近へ上昇した。気候要因で豪州からの出荷量が減少したほか、エネルギー高騰に伴う採掘・輸送コスト上昇が意識された。中国の鉄鋼生産は住宅不況などを背景に低調に推移するが、春節明けもあり3月の鉄鉱石輸入量は前年比1割増加した。もっとも、鉄鋼減産方針を背景に今後の中国の鉄鉱石需要は盛り上がりや欠く。世界鉄鋼協会は2026年の中国の鉄鋼消費量を5.7%下方修正した。足元の鉄鉱石供給は回復基調にあり、今後の価格上昇余地は限定的とみられる。

**原料炭**：価格は245ドル付近まで上昇後、限月切替の影響で一次下落し、足元は頭打ち。インド需要に加え、中東情勢緊迫化を背景とした燃料費の上昇による採掘コストの押し上げが相場を支えた。一方、海上運賃の高騰や鉄鋼需要の下押し懸念から調達には慎重化し、3月末以降は下落した。世界鉄鋼協会は2026年のインド鉄鋼消費量を2.3%下方修正しており、今後は需要に力強さを欠く展開が想定される。一方、スーパーエルニーニョによる供給懸念やコスト増加は価格の下支えとなろう。

▽鉄鉱石 (SGX、期近物)



▽原料炭 (SGX、期近物)



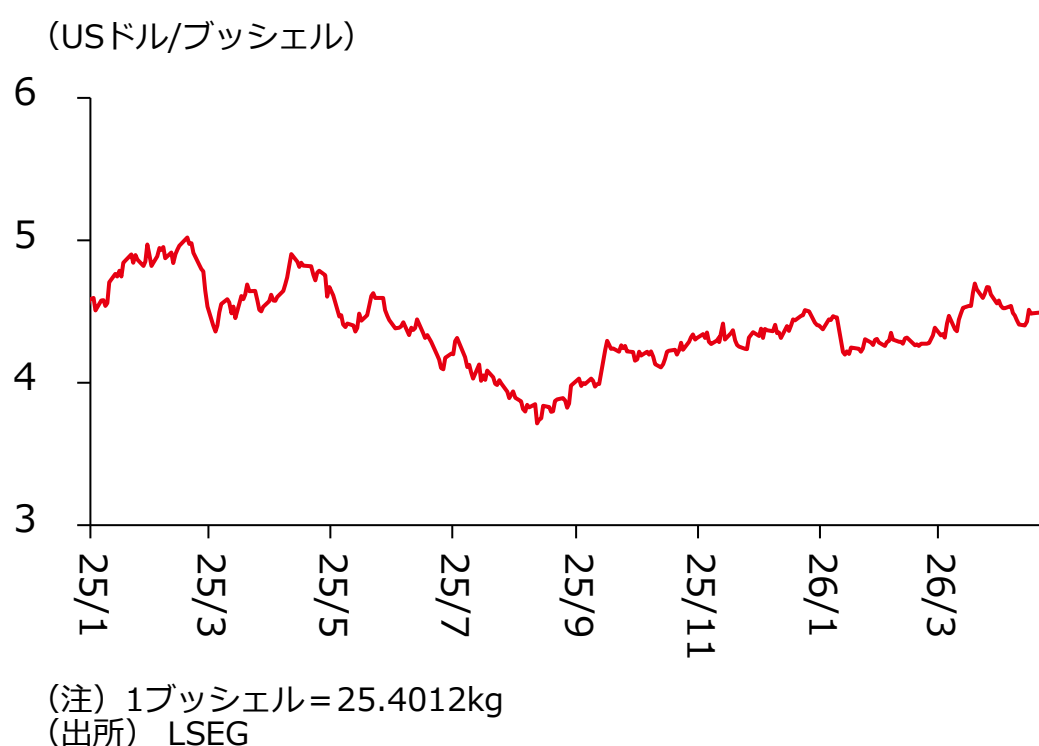
## 穀物

主任研究員 浦野 愛理

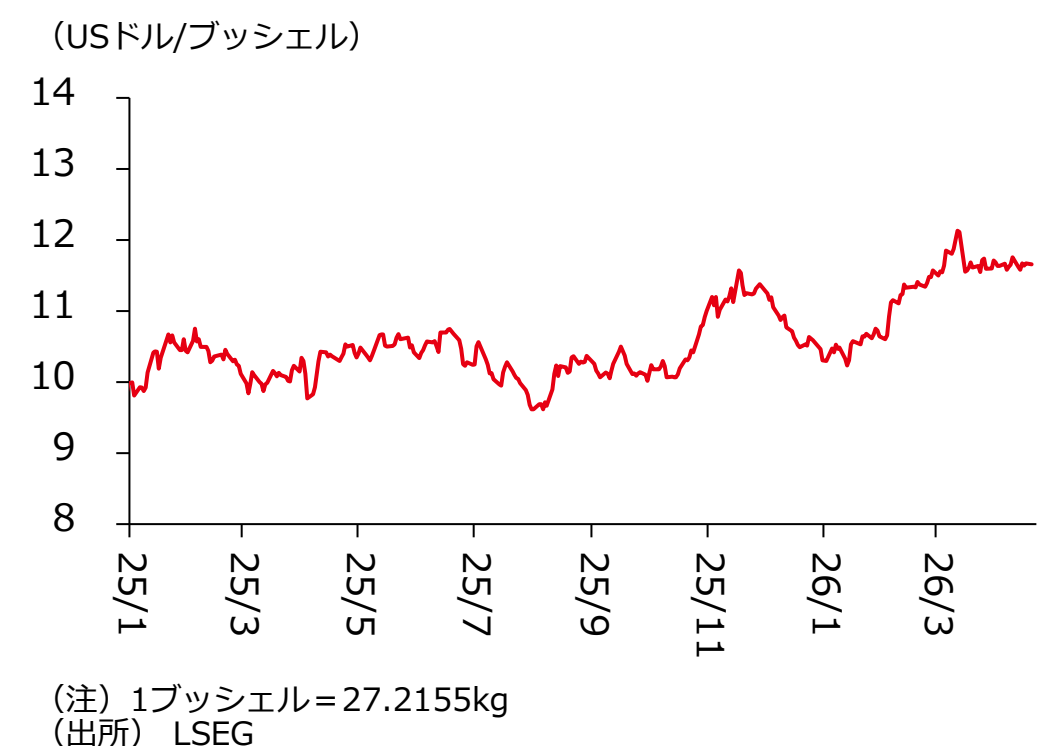
**トウモロコシ**：米シカゴ商品取引所 (CBOT) のトウモロコシ価格は、4.5ドル付近まで下落。原油高に伴うエタノール需要増加観測が出る中でも、南米生産見通しの上方修正などが下落要因となった。3月末公表の米国の作付意向面積は前年比▲3%と予想通りの減少で、価格への影響は限定的。今後は高水準の供給が価格を抑制する一方、燃料油や肥料の価格上昇が生産コストの押し上げ要因に。今シーズンの作付はほぼ終わっており、影響は追肥、収穫、運送等を通じて出る可能性がある。

**大豆**：大豆価格 (CBOT) は、11ドル台半ばまで下落。原油高で大豆油由来のバイオディーゼルへの需要増観測は出たが、南米の豊作観測などが重しに。3月末公表の米国の作付意向面積は前年比+4%と、関税対抗措置としての中国の輸入減への観測から減産していた前年からの反動もあり増加。今後は5月半ばの米中首脳会談を控えて方向感を欠く展開となろう。肥料価格の高騰に伴い、肥料多消費のトウモロコシから大豆への作付シフトが来シーズンに顕在化する可能性に留意。

▽トウモロコシ (CBOT、期近物)



▽大豆 (CBOT、期近物)



(執筆者プロフィール)

**李 雪連 (Xuelian Li)**

xuelian-li@marubeni.com

上席主任研究員

研究分野：中国・東アジア、商品・エネルギー、産業

IT企業勤務を経て2005年に丸紅入社後、丸紅経済研究所にて主に中国・東アジア、商品・エネルギー、産業を担当。講演や取材、寄稿なども行う。2013年から15年まで米国・戦略国際問題研究所（CSIS）に出向し米中関係を研究。早稲田大学アジア太平洋研究科修了（国際関係学修士）。（社）日本証券アナリスト協会検定会員、国際公認投資アナリスト、中国経済経営学会会員。

**菜名 奈美 (Nami Kuwana)**

KUWANA-N@marubeni.com

上席主任研究員

研究分野：サステナビリティ、サーキュラーエコノミー、LCA、エネルギー

日系金融機関を経て2017年から鉄鋼系シンクタンクにて鉄鋼業の環境・エネルギー政策・技術動向調査などを担当。2023年から丸紅経済研究所。主に素材産業やサステナビリティの産業政策分析などを担当。LCA学会削減貢献量研究会委員、削減実績量研究会委員。東京大学法学部卒業。

**浦野 愛理 (Airi Urano)**

URANO-A@marubeni.com

主任研究員

研究分野：マクロ経済、米国、中南米、日本、穀物

2016年に丸紅入社後、丸紅経済研究所にて国内マクロ経済・金融政策などの経済調査、原油・銅市況や環境・エネルギー政策などの産業調査に従事。現在は米国や中南米などの政治経済、穀物市況を担当。2020年から22年に内閣府（経済財政分析担当）へ出向。一橋大学商学部商学科卒業。

---

## 株式会社丸紅経済研究所

〒100-8088 東京都千代田区大手町一丁目4番2号

<https://www.marubeni.com/jp/research/>

(免責事項)

- 本資料は公開情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性、相当性、完全性を保証するものではありません。
- 本資料に従って決断した行為に起因する利害得失はその行為者自身に帰属するもので、当社は何らの責任を負うものではありません。
- 本資料に掲載している内容は予告なしに変更することがあります。